

研究班番号【 12 】  
英単語テストの点数上昇を目指して

12班: 宿口珠蒼、村瀬和子、南川真穂、大倉萌楓

### Abstract

Recently, Almost all students are challenging tests of English words without studying it. We think why they don't study for the tests, despite a lot of people answer that the most of important subjects is English on the questionnaire of university tests taker. Therefore we try to clear this condition that students don't study for exams and how to improve this condition through the experiment.

### 要約

本研究の目的は英単語の勉強意欲向上の方法を明らかにすることである。実験によって、ポスターより、人からの声を用いた実験の方がより勉強の意欲向上に繋がるということがわかった。したがって本研究では、視覚からの情報より聴覚からの情報の方が意欲向上に繋がるということが結論づけられた。

### 1 はじめに

1週間に1度英語の授業で行われる、英単語テストの勉強をしない、または、その日の朝やその授業前の休み時間に勉強をはじめて挑むのが当たり前になっている。受験生へのアンケートで最も大切な科目は英語と答える人が多く、単語は英語を勉強する上での基盤となる。それにもかかわらず、なぜ勉強をしない人が多いのか。英単語の勉強をおろそかにしてしまっている状況をどのようにしたら改善されるかということをもとに、周りの人からの声がどうやる気に繋がるのかに着目して実験を通して明らかにしていきたいと思う。

### 2 研究手法

私たちは初めに、視覚から入る情報が人にどのような影響を与えるかという点に着目し、その実験にポスターを用いることにした。その後、耳から入る情報が人にどのような影響を及ぼすのかという点に着目し、次は言葉を投げかけることにした。

#### 《実験1》

①テストの呼びかけポスター3種類(奇抜、ちょげ、シンプル)を作った。ポスターには、3種類とも共通して、単語テストの範囲と日付を載せるようにした。

【図1 ポスターの種類】

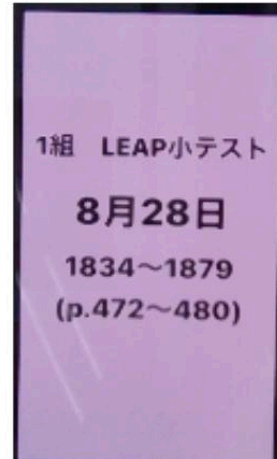
#### ①奇抜



#### ②ちょげ



#### ③シンプル



②各クラス(6クラス)のテスト3日前に黒板横にポスターを貼る。(各種類2クラスずつ)

③テスト後に、googleフォームでアンケートを実施した。

質問内容:1小テストのポスターに気づいたか。

2気づいた人の中でいつもより勉強したか、点数は上がったか。

#### 《実験2》

①4人～9人で1組のグループになり、一枚の紙を配る。この紙に書くことは、名前、勉強時間、点数である。

②テストの前に声をかけ(ポジティブ、ネガティブ、何もしない)終えた後、点数を報告し、分析する。

③LEAPの小テストを終えた後点数を書いてもらう。

④点数はあがったか、やる気が上がったかのアンケートを行う。

### 3 結果

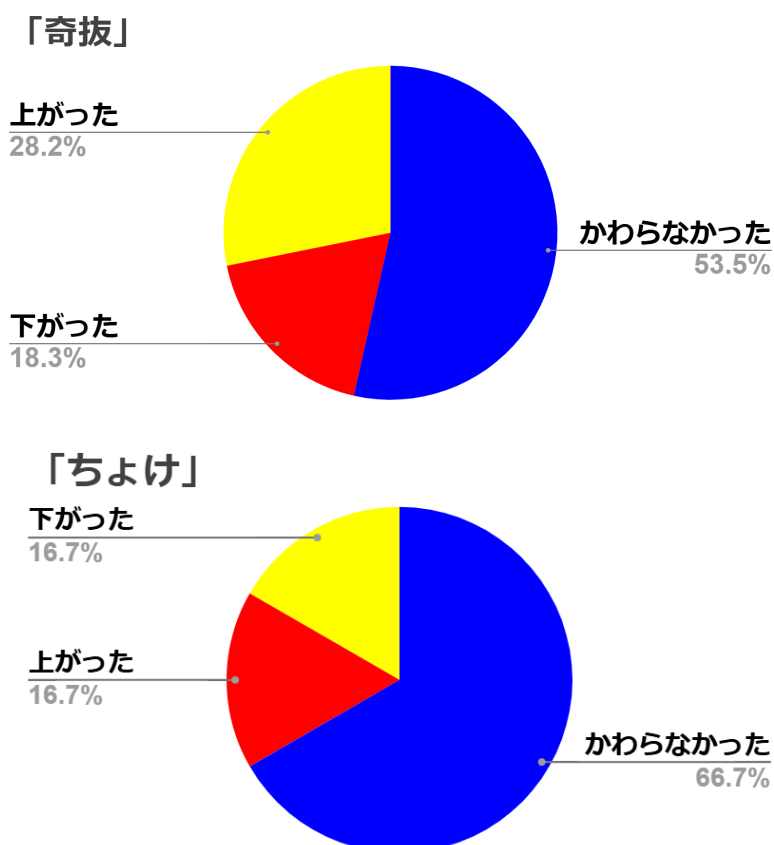
#### 《実験1》

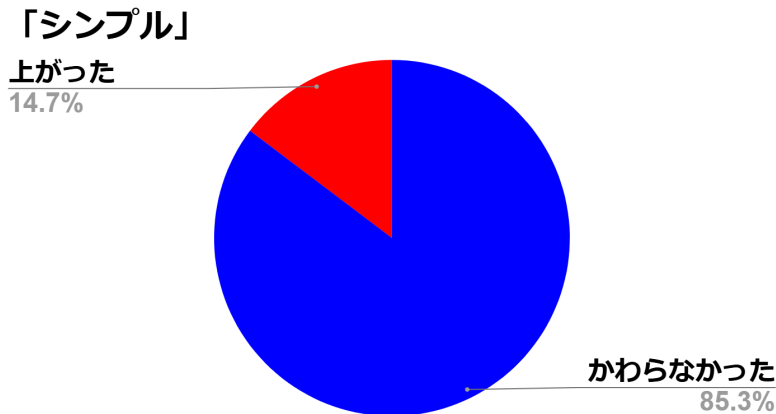
奇抜なポスターは、「ポスターに気づいたか」という質問に対して、「はい」と答えた人が96%と最も多く、シンプルなポスターが「ポスターに気づいたか」「気づいてからより勉強したか」のどちらの質問でも「はい」と答えた人が最も低い結果となった。

【図2 事後アンケート結果 ポスターに気づいたか・より勉強したか】

ポスターの種類	ポスターに気づいたか		より勉強したか	
	はい	いいえ	はい	いいえ
奇抜	96%	4.00%	26.50%	73.50%
ちょけ	62.50%	37.50%	23.50%	76.50%
シンプル	32.40%	67.60%	13.30%	86.70%

【図3 点数が上がったか】





#### 《実験2》

ポジティブな声掛けをした班は10人中5人、何もしない班とネガティブな班は10人中3人点数が上がった。このことからポジティブな声掛けが最も効果があったと言える。また、やる気が上がったかの質問に対しては、ポジティブな声掛けの班は10人中4人、ネガティブな声掛けの班では10人中2人、何もしない班は10人0人でこちらも同様、ポジティブな声掛けが最も効果があった。

#### 4 考察

どのポスターでも点数が低くなっていることから、テスト範囲や日程が目に入るだけでは勉強のやる気には繋がらないことが分かる。ポスターには、多くの人の目につくという目的しかないため、そこからの行動はその人自身に任されることになったと考えられる。実験2では仮説を立てた通り、ポジティブな声かけをした班が最も点数が上がった。アンケートより、周りの頑張りが見えるから頑張ろうと思えた、お互いを高め合える、周りの声掛けで落ちかけたやる気がアップしたなどの声が上がった。そのため、ポジティブな声かけは他の声かけよりもより高め合え、周りの人の頑張りが自分を高めることができる相乗効果があったと考察しました。それと同様に、グループを組み友達の勉強の進捗状態を見れたことも勉強の意欲に影響したことがわかる。

#### 5 結論

声をかけるより、ポスターでテストを呼びかけた方が、点数が上がった人が多かった。ポスターでは、奇抜なものの方が、面白いポスターやシンプルなポスターよりも目を惹き、勉強のやる気に繋がる。さらに、ポスターよりも効果的な方法は人と励まし合う、繋がりを持つことである。周りが勉強してる状況に置かれると「自分もやらないと」と焦りを持ち勉強に行動を移す人が多くなることがわかった。

#### 6 参考文献ならびに参考Webページ

渋田一夫著(2009)『フォントに対する心理的評価の表示媒体による違い』  
日本デザイン学会研究発表大会概要集

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssd/56/0/56\\_0\\_G21/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssd/56/0/56_0_G21/_pdf)

芦澤, 昌子, 池田光男著(1994)『日本色彩学会誌 18(3)』200～204ページ

<https://cir.nii.ac.jp/crid/1540009770394118912>